

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和6年2月28日
#健康管理士 村山 章

毎週日曜日の「読売新聞」に「あすへの考」というコラムが掲載されていますが、先日は教育部主任の山田睦子氏が担当でした。AI(人工知能)の進化形とも言える「生成AI」が急速に人間の活動領域に進出し、社会が大きく影響を受けるなかで、学力観も転換期にあるとのこと。見出しには「AI時代こそ『非認知』学力」とありました。

「認知能力」とは点数にできる知識や技能、読み・書き・そろばん・英語力・IQ(知能指数)を指し、「非認知能力」とは点数では測れない生き抜くために必要な力、好奇心・創造性・忍耐力・自制心・意欲・向上心・共感・協調性とあります。非認知能力への関心は世界的に高まっているようで、日本でも埼玉県、岡山県、群馬県を中心に教育現場での試みが展開されています。2019年にこの非認知能力に関する初の大規模調査を実施したOECD(経済協力開発機構)は、「教員との関係が良好だと非認知能力が高い」という調査結果を発表しているようです。

Microsoft Bingによると子供の非認知能力の鍛え方として、親子のコミュニケーションの時間をつくる、読み聞かせの習慣化、その場で具体的に褒める、などの方法があるとのこと。他に非認知能力高める5つの力として、挨拶・礼儀、リーダーシップ、協調性、自己管理力、課題解決力が挙げられていました。以前は、学力を知識量と同じように捉え、たくさん勉強して大企業に入社すれば一生安泰と考える時代もありました。私たちのような力仕事は、いわゆる知識量はあまり関係ありません。一方で挨拶・礼儀、リーダーシップ、協調性などには少し自信があります。全ての人生において、1日は24時間しかありません。8時間を睡眠に、さらに8時間を仕事に割り振ると、残りの8時間が食事や趣味などになります。私たちも、もう少し自信をもって仕事に励んでよいのではないのでしょうか。それが人生を大切にすることにつながると思います。